

経済教育ネットワーク東京部会 2025.9.13 記録

日 時：2025 年 9 月 13 日（土）15:00 - 17:00

場 所：慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 1 階 A 会議室

参加者：会場 14 名、zoom 9 名、計 23 名

「政治・経済」における実践～起業家と連携した授業～

都立豊多摩高校の井波祐二先生より起業家・投資家の役割を学ぶ授業についての発表があった。定時制の前任校から講演やパネルディスカッションなど方法を変えて実施しており、キャリア教育を踏まえて「聞く・話す」を中心の授業で満足度は 90%以上であった。

今回はキャリアの観点だけでなく、起業・投資に対する見方・考え方を深めさせたいと考え、起業家の本気のピッチ（10 分間のプレゼン）を聞き、投資判断する授業を行った。「事業投資はどのような観点でおこなわれるのか」をテーマに投資家の立場になって、架空の所持金 1000 万円をどこにいくら投資するかを検討し、他者との意見交換。その上で投資家から実際の投資の観点について話を聞いた。投資ワークはアンケートフォームで行う。3 社のうち一番投資額を集められたのは、AR・VR の会社であった。最後にゲストにキャリアトークをしてもらった。

授業前は小中学校で起業家の話を聞いたことある生徒はほとんどおらず、内容も覚えていないという状況であり、世の中の投資家は、お金を稼ぐ/資産形成を目的にしていると答える生徒が多く、起業家になりたいという意欲は 2 割程度であった。授業後、生徒は将来について、「起業を心に決めた」が約 8%、「チャンスがあったら起業したい」が約 20%と回答した。授業の感想には、「投資家の立場から発表を聞くことで、多角的に物事をみられた」「人柄が大事だということが分かった」などの意見や、儲かりそうなところだけでなく、将来性を見通すような意見もみられた。

起業家と連携した授業の新しいモデルの実践ができたこと、起業家のリアルを知り、投資家目線で考えることができたことが成果である。課題は、収益性や安定性を教えないことの是非や別の手法について検討である。

授業の目的や「政経」授業との関連性・発展性について活発に質疑がなされた。杉浦先生から、授業の意義と社会的投資の観点についての質問があり、「公共」「政経」の学習指導要領に重なる起業家のキャリアを意識しての授業であり、ESG などソーシャルな領域への投資は通常の授業で触れているとのこと。投資という行為のリアリティを重視し、人々のワクワクが生まれるといった、経済的利益だけでなくものに着眼する生徒もいたとの回答がなされた。

杉田先生からは、プロを呼ぶ授業モデルについての質問で、大人を呼ぶときの苦勞につ

いての話があった。井波先生から起業で働きながらも、起業家精神をもってほしいという意図のもと、起業するときに経営知識が必要だと思いがちで、高尚な理由がないと起業することはできないと思う高校生に、起業家の話を聞くことでイメージがかわるという話があった。

埴先生から「政経」の授業や起業家目線の学びとのつながりについて質問があった。井波先生からは、10 分のプレゼンでは直感で選ぶしかない点が課題で、今回は導入としての位置づけが強かったが、会計に着目させる方向を考えている。次なる方法として、起業家目線になるワークも考えられる。一般的に生徒がやって、プロが判断する授業構成を逆にしたい（ビジネスコンテスト等）、今回はその効果を検証したかったとの返答があった。

起業家への投資は、直接金融だが、間接金融についても融資の観点から扱うべきという意見や、古田先生からは起業や投資のリスクについての話はあったのか、全額投資に限定している理由について質問がなされた。高校生はリスクをすでに感じており、起業家のキャリアトークで、倒産の危機などは自然に触れている。投資しない選択もあるが配分を考えることに重きを置いたとの返答があった。

鍋島先生からは、起業に対するネガティブがポジティブに変わったのは大きな成果であり、選択肢が広がることに意味があること、授業前に生徒の意識やその理由を聞いておくことで学校の実態にあった授業となること、進路活動や探究学習と組み合わせた立体的な授業デザインの可能性について意見が出された。

FP 協会の教材紹介

日本 FP 協会の柘植めぐみ様より FP 協会の教材紹介が行われた。ライフプランに応じた資金調達・お金について学べる機会の創出を目的に、『10 代から学ぶパーソナルファイナンス』という高校生向けの教材がある。各レッスンは完結型、授業回数に応じて利用でき、先生用のマニュアルやワークシート、動画もある。

やりたいことややりたい自分を想像して、目標を達成するために、ファイナンシャルプランニングがある。たとえば、お金との付き合い方（1 カ月間の貯蓄額）や 10 年後の自分を思い描いてみようなどのワークがあり、様々なライフイベントの金額例は生徒が知らないで、現実的に身近に考えられるようになる。卒業後 10 年間でかかるお金をキャッシュフロー表でイメージさせる授業もある。

また、お金を稼ぐ（平均年収、生涯賃金）などを理解し、雇用の違いや税金と社会保険の関わりを考える授業もある。パーソナルファイナンスは家庭科と思うかもしれないが、ソーシャルファイナンスも含めて、人生とお金は切り離せない。だからこそ、理想とする人生を実現するためには資金計画をすることで、選択肢が増えて心も豊かになることを、教材を通して伝えていきたいとの説明があった。

テキストや出張授業、メールマガジンなどで金融経済教育を手伝わせていただきたいという FP 協会の紹介があった。

篠原先生より、金融教育と起業家教育が流行っているが、何を教えるかをはっきりさせないといけないと総括がなされた。中学・高校の金融経済教育は何をねらいとするか、冷静にステップバックして考えるべきである。住みやすい社会（制度設計）の実現と個人の幸福の実現、パーソナルファイナンスと公民科が扱う社会の問題の区別を意識し、学校の実態に応じてキャリアの観点から内容を変える、かじ取りの必要性について助言があった。

最後に、8月に開催された先生のための「夏休み経済教室」について東証の吉村様より説明があった。アンケートの回答率は4割で、初めてと3回目以上が約4割ずつ二分される傾向にある。80点以上で満足と答えた人が多く、各講義に対して勉強になったとの声が多数とのこと。今後への要望は、専門性や幅広い内容を求めるものが多く、多様であった。会場の収容数に対しての参加者が多かったという印象があったのと意見も示された。

説明を踏まえて、来年の夏の経済教室や今後の春の経済教室について意見交換が行われた。

記録：杉浦